

平成26年度三番瀬漁場再生事業の実施結果の概要と平成27年度の実施計画(案)について

資料1

第3次事業計画 (H26-H28)事業名	3カ年の目標	平成26年度計画	平成26年度の実施状況	平成27年度計画(案)
3節—1. 豊かな漁場への改善 の取組	◎漁場改善効果の検証と漁業者グループ・漁協・地元市及び県との協力による漁場改善の推進。	1. 漁業者と連携した覆砂場所のモニタリングの継続(底質調査、生物調査) 2. 漁業者グループによる干潟保全活動の支援(覆砂、海底耕うん、害敵生物の駆除等) 3. 「三番瀬漁場再生事業連絡協議会」の運営支援	1. H23年、H24年実施覆砂場所のモニタリング調査(資料3) ・底質調査(夏季1回実施) ・二枚貝等の生物調査(偶数月に実施) 2. 漁業者グループによる干潟保全活動の実施。(資料2) ・覆砂(客土)。 ・海底耕うんの実施。 ・干潟機能の低下をもたらすツメタガイの駆除の実施。 ・発生稚貝の密度管理や移植放流。 ・アサリ稚貝の沈着促進の実施。 ・アオサ発生モニタリング調査(5月～11月…資料9) 3. 三番瀬漁場再生事業連絡協議会の運営支援 ・第6回協議会の開催	1. 漁業者と連携した覆砂場所のモニタリングの継続(底質調査、生物調査) 2. 漁業者グループによる干潟保全活動の支援(覆砂、海底耕うん、害敵生物の駆除等) 3. 覆砂等地盤高嵩上げによる漁場改善効果の検討 4. 「三番瀬漁場再生事業連絡協議会」の運営支援
3節—2. ノリ養殖業・貝類漁業 対策	◎漁場特性や環境変化に対応したノリ養殖管理の実践と二枚貝増産対策の推進。	1. ノリ芽健全度調査、水質、栄養塩等の情報提供及び現地指導の実施。 2. 漁業者と連携した貝類資源調査の継続及び、網袋によるアサリ育成技術開発試験の実施。 3. ハマグリ人工種苗の育成技術開発(着底期までの餌料条件の把握)	1. 養殖管理情報の提供や現地における技術指導を実施。 → 漁期前半から中盤は良好な生産(資料7) 2- (1). 貝類資源調査(漁業者と連携し偶数月に実施) → 貝類漁獲量は増加傾向(資料4) 青潮被害調査及び被害報告会の開催。(資料5) → 青潮波及前資源量の約6割に当たる4,000t強が斃死 2- (2). アサリの冬季減耗対策(資料6) (育成技術及び育成適地の検討) 3. ふ化後から着底期までの好適な飼育条件の検討を実施。	1. ノリ芽健全度調査、水質、栄養塩等の情報提供及び現地指導の実施。 2. 漁業者と連携した貝類資源調査の継続及び、網袋によるアサリ育成技術開発試験の実施。 3. ハマグリ人工種苗の育成技術開発(着底期から殻長1mm程度までの好適な飼育条件の把握)
4節—11. 貧酸素水塊情報の高度化	◎高精度な貧酸素水塊情報の提供と浅海域漁場の有効利用の推進。	1. 漁業者との共同調査による「貧酸素水塊分布予測システム」の運用。 2. 東京湾調査指導船「ふさなみ」による貧酸素水塊が浅海域漁場の底生生物に及ぼす影響調査。 3. 貧酸素水塊の影響が少ない水域区分と有効利用の推進。	1. 漁業者との共同により28回の貧酸素水塊速報を発出。また、貧酸素水塊分布予測システムを利用した、青潮発生時の漁場の利用方法を検討。 (資料8 今年の貧酸素水塊まとめ) 2. 底生生物は貧酸素水塊の波及が少ない水深10m以浅で多く出現。(湾奥では二枚貝類、東岸では甲殻類と環形動物)(資料8 生物分布図) 3. 貧酸素水塊の水域別継続日数から影響が少ない水域を区分。貧酸素水塊の影響軽減手法を検討した。 (資料8 貧酸素継続日数図)	1. 漁業者との共同調査による「貧酸素水塊分布予測システム」の運用。 2. 干潟域への青潮波及による影響予測の高精度化と漁場改善効果シミュレーションシステムの開発。